学校番号	3001

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂版　新　高校の数学Ⅱ　（数研出版）						
副教材等	改訂版　新　高校の数学Ⅱ対応　教科書学習ノート　数学Ⅱ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では課題に対してまず自ら考え、次に周りと協力して考えていく活動をします。
・プリントごとに確認テストを行い、定着の程度を計ります。
・問題集は定期考査ごとに提出してもらいます。日頃から少しずつでも進めて、定着に努めましょう。
・プリントは授業ごとに提出してもらいます。板書だけでなく、自分の考えや周りの人の考えも積極的に記録しましょう。

2　学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、微分の考えについて習得する。
基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、微分の考え方に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、微分における数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、微分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、微分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	プリント 確認テスト 観察等	確認テスト 定期テスト プリント 観察等	確認テスト 定期テスト プリント 観察等	確認テスト 定期テスト プリント 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1学期</td><td rowspan="2">複素数と方程式</td><td>複素数と2次方程式</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td rowspan="4">a:　数直線や座標平面上に事象を対応させることによって、課題を解決しようとしている。
b:　直線の方程式について、意味を考察することができる。また、事象に対してどの定理を用いればよいのか考察できる。
c:見通しをもって式を扱うことができる。複素数が含まれている二次方程式や、高次方程式を解くことができる。
d:乗法公式や因数分解の公式、剰余の定理や因数定理を理解している。</td><td rowspan="8">確認テスト
定期テスト
プリント
観察等</td></tr>
<tr><td>因数定理・高次方程式</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">図形と方程式</td><td>点と直線</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>直線の方程式</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2学期</td><td rowspan="2">図形と方程式</td><td>円の方程式</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="4">a:指数や対数の有用性を理解し、課題を解決しようとしている。
b:　指数関数・対数関数を用いて課題を解決しようとし、またそのために最適な性質を考察することができる。
c:円の方程式を求めることができる。また、内分点・外分点の座標を求めることができる。
d:直線の方程式と円の方程式の意味を理解している。座標平面における直線や円の扱い方に関して、基礎的な知識が身についている。</td></tr>
<tr><td>不等式と領域</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指数関数・対数関数</td><td>指数関数</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>対数関数</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

3学期	微分と積分	微分係数と導関数	○	○	○	○	a:微分によって求まる関数に興味を持ち、関数の値の変化に活用しようとしている。 b:導関数を用いて複雑な関数について考察できる。 c:微分を行うことで３次関数などのグラフをかくことができる。 d:具体的な事象についての応用法を理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
　　c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。